

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-204	高等学校	国語	文学国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	文国・104-901	改訂版 文学国語		

<h2>1. 編修の基本方針</h2> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。</li> <li>● 我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めるとともに、文化の担い手としての自覚を養う。</li> <li>● 創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合うことができる確かな文章の創作力を育成する。</li> <li>● 作品や文章に表現されたものを読み取る、確かな読解力を育成する。</li> </ul>
---

<h2>2. 対照表</h2> <table border="1"> <thead> <tr> <th>図書の構成・内容</th> <th>特に意を用いた点や特色</th> <th>該当箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文学の扉</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 社会生活における「フィクション」の必要性を説いた『「フィクション」の力』の読解を通して、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)</li> <li>✓ 「臆病な自尊心」「尊大な羞恥心」を合わせ持ち虎となった『山月記』の主人公の性情について考察を深める中で、真理を求めて豊かな情操をはぐくめるようにした。(第1号)</li> </ul> </td> <td>p. 10～p. 36</td> </tr> <tr> <td colspan="3"><b>第一章</b></td> </tr> <tr> <td>令和・平成の小説</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 母と子の関係を描いた『鍋セット』の読解を通して、真理を求めて豊かな情操と道徳心をはぐくめるようにした。(第1号)</li> <li>✓ 父と子の関係を描いた『もういいよ』の読解を通して、真理を求めて豊かな情操と道徳心をはぐくめるようにした。(第1号)</li> </ul> </td> <td>p. 38～p. 73</td> </tr> <tr> <td>昭和後期の小説</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 『ナイン』における野球団の仲間たちの心情の考察を通して、自他の敬愛と協力を重んずる精神を養えるようにした。(第3号)</li> <li>✓ 父の目線から息子を描く『三月の風』の読解を通して、自他の敬愛と豊かな情操をはぐくめるようにした。(第1号・第3号)</li> </ul> </td> <td>p. 74～p. 105</td> </tr> <tr> <td>昭和初期の小説</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 社会から隔離した岩屋に閉じ込められた山椒魚を描いた『山椒魚』の読解を通して、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにした。(第3号)</li> <li>✓ 自己の真価を確認できずに苦悩する『水仙』</li> </ul> </td> <td>p. 106～p. 149</td> </tr> </tbody> </table>	図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	文学の扉	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 社会生活における「フィクション」の必要性を説いた『「フィクション」の力』の読解を通して、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)</li> <li>✓ 「臆病な自尊心」「尊大な羞恥心」を合わせ持ち虎となった『山月記』の主人公の性情について考察を深める中で、真理を求めて豊かな情操をはぐくめるようにした。(第1号)</li> </ul>	p. 10～p. 36	<b>第一章</b>			令和・平成の小説	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 母と子の関係を描いた『鍋セット』の読解を通して、真理を求めて豊かな情操と道徳心をはぐくめるようにした。(第1号)</li> <li>✓ 父と子の関係を描いた『もういいよ』の読解を通して、真理を求めて豊かな情操と道徳心をはぐくめるようにした。(第1号)</li> </ul>	p. 38～p. 73	昭和後期の小説	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 『ナイン』における野球団の仲間たちの心情の考察を通して、自他の敬愛と協力を重んずる精神を養えるようにした。(第3号)</li> <li>✓ 父の目線から息子を描く『三月の風』の読解を通して、自他の敬愛と豊かな情操をはぐくめるようにした。(第1号・第3号)</li> </ul>	p. 74～p. 105	昭和初期の小説	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 社会から隔離した岩屋に閉じ込められた山椒魚を描いた『山椒魚』の読解を通して、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにした。(第3号)</li> <li>✓ 自己の真価を確認できずに苦悩する『水仙』</li> </ul>	p. 106～p. 149
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所																
文学の扉	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 社会生活における「フィクション」の必要性を説いた『「フィクション」の力』の読解を通して、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)</li> <li>✓ 「臆病な自尊心」「尊大な羞恥心」を合わせ持ち虎となった『山月記』の主人公の性情について考察を深める中で、真理を求めて豊かな情操をはぐくめるようにした。(第1号)</li> </ul>	p. 10～p. 36																
<b>第一章</b>																		
令和・平成の小説	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 母と子の関係を描いた『鍋セット』の読解を通して、真理を求めて豊かな情操と道徳心をはぐくめるようにした。(第1号)</li> <li>✓ 父と子の関係を描いた『もういいよ』の読解を通して、真理を求めて豊かな情操と道徳心をはぐくめるようにした。(第1号)</li> </ul>	p. 38～p. 73																
昭和後期の小説	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 『ナイン』における野球団の仲間たちの心情の考察を通して、自他の敬愛と協力を重んずる精神を養えるようにした。(第3号)</li> <li>✓ 父の目線から息子を描く『三月の風』の読解を通して、自他の敬愛と豊かな情操をはぐくめるようにした。(第1号・第3号)</li> </ul>	p. 74～p. 105																
昭和初期の小説	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 社会から隔離した岩屋に閉じ込められた山椒魚を描いた『山椒魚』の読解を通して、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにした。(第3号)</li> <li>✓ 自己の真価を確認できずに苦悩する『水仙』</li> </ul>	p. 106～p. 149																

	の登場人物の心情を読み取ることを通して、個人の価値を尊重する態度を養えるようにした。(第2号)	
大正の小説	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 人間のエゴイズムや罪を見つめた『こころ』の読解を通して、道徳心を培うとともに、正義と責任、自他の敬愛の心をはぐくむことができるようにした。(第1号・第3号)</li> </ul>	p. 150～p. 205
詩歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 近代以降のさまざまな詩歌に触れることで、伝統的な我が国の言語文化の理解が深まるよう配慮するとともに、生命や自然、自他の敬愛などを詠った詩歌の読解を通して、生命・自然を尊ぶ心、公共の精神をはぐくむ心が養えるようにした。(第3号・第4号・第5号)</li> <li>✓ 短歌・俳句の創作を通じて、創造性を培うことができるようにした。(第2号)</li> </ul>	p. 206～p. 229
文学的文章の創作	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 文学的文章の創作活動を通して、創造性を培うことができるようにした。(第2号)</li> </ul>	p. 230～p. 245
古典と現代語訳	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 『源氏物語』とそのさまざまな現代語訳を読むことを通して、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)</li> </ul>	p. 246～p. 261
文学評論	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 文学評論の読解を通じて、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養えるようにした。(第1号)</li> </ul>	p. 262～p. 286
<b>第二章</b>		
令和・平成の小説	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 死を見つめる目をした人物との出会いと交流を描いた『ひよこの眼』を読むことで、生命を尊ぶ態度を養えるようにした。(第4号)</li> <li>✓ ヤゴの羽化を観察する登場人物を描いた『はね』の読解を通して、生命・自然を尊ぶ心態度を養えるようにした。(第4号)</li> </ul>	p. 288～p. 325
昭和中期の小説	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 安部公房の前衛的作品『赤い繭』の読解を通して、真理を求める態度を養えるようにした。(第1号)</li> <li>✓ 太平洋戦争末期のフィリピンの戦いを描いた『野火』の読解を通して、戦争の悲惨さを理解し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにした。(第5号)</li> </ul>	p. 326～p. 359
大正の小説	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 感覚を働かせて想像の世界に身を浸らせる主人公を描いた『檸檬』の読解を通して、豊かな情操と創造性を培えるようにした。(第1号・第2号)</li> <li>✓ 周囲の人々によって将来の職業を決められてしまう主人公を描いた『笑われた子』の読解を通して、個人の価値を尊重して、自主及び自律の精神を養えるようにした。(第2号)</li> </ul>	p. 360～p. 391

明治の小説	✓ 文語で書かれた『舞姫』に触れることで、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)	p. 392～p. 431
海外の小説	✓ 海外の小説に触れることにより、他国を尊重する態度を養うことが出来るようにした。(第5号)	p. 432～p. 453
戯曲	✓ 家族を捨てて出奔した父親が帰還する家族ドラマ『父帰る』を読むことで、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養えるようにした。(第3号)	p. 454～p. 471
文学の普遍性	✓ ささまざまな古典作品を読むことを通して、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)	p. 472～p. 479
文学評論	✓ 文学評論の読解を通じて、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養えるようにした。(第1号)	p. 480～p. 498

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第51条2号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、知っておきたい国語的教養に関するコラム（「ズームアップ」「解説」）を随所に掲載した。
- 学校教育法第51条第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末の設問では、我が国の言語文化を多角的な視点から考察できる設問を多数用意した。





2. 対照表

\* 配当時数における丸付き数字は「A 書くこと」の時数を示す。

図書の構成・内容		学習指導要領の内容						該当箇所 [頁]	配当時数
		知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等					
				A 書くこと		B 読むこと			
単元	教材	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)		
文学の扉									
	「フィクション」の力	イ				ウ・カ	ア	10	6
	【チェックポイント1】小説とはどのようなものか	ウ	ア・イ					15	
	山月記	エ	ア			ア・イ・ウ・オ・キ	ア	16	
	【作者解説】中島敦		イ					30	
	【探究の扉】人虎伝	ウ・エ	ア			キ	ア	32	
第一章									
令和・平成の小説	鍋セット	ア	ア			ア・イ・カ	ア	38	8
	【作者解説】角田光代		イ					53	
	もういいよ		ア			イ・カ	ア	54	
	【作者解説】東直子		イ					71	
	【ズームアップ】越境する表現者・作品		ア・イ					72	
昭和後期の小説	ナイン	イ・エ	ア			イ・ウ	ア	74	8
	【作者解説】井上ひさし		イ					88	
	三月の風	エ	ア			ア・イ・エ・カ	ア	90	
	【作者解説】阿部昭		イ					102	
	【ズームアップ】大衆が支持した文学		ア・イ					104	
昭和初期の小説	山椒魚	イ	ア			ア・イ・オ・カ	ア	106	8
	【作者解説】井伏鱒二		イ					118	
	水仙	ウ・エ	ア			イ・ウ・エ・オ・キ	ア	120	
	【作者解説】太宰治		イ					138	
	【探究の扉】忠直卿行状記		ア			キ	ア	140	
	【ズームアップ】太宰治と師と変身		ア・イ					146	
	【チェックポイント2】心情を読み取る	ア						148	
大正の小説	こころ	エ	ア			ア・イ・オ・キ	ア	150	8
	【作者解説】夏目漱石		イ					194	
	【探究の扉】現代日本の開化					キ	イ・カ	196	
	【ズームアップ】漱石のマグネティズム		ア・イ					204	
	【チェックポイント3】詩歌を味わう	ア・イ・ウ・エ	ア・イ					228	
詩歌	小諸なる古城のほとり	エ	ア			イ・ウ	ア	206	6
	【作者解説】島崎藤村		イ					208	
	永訣の朝	エ	ア			イ・ウ・オ・キ	ア・カ	210	
	【作者解説】宮澤賢治		イ					214	
	表札	エ	ア			ア・イ・オ	ア・カ	216	
	発車	エ	ア			イ・ウ・カ	ア	218	
	短歌		ア	ア・ウ・エ	ア			220	
	俳句		ア	ア・ウ・エ	ア			224	
	【チェックポイント3】詩歌を味わう	ア・イ・ウ・エ	ア・イ					228	
	文学的文章の創作	エ	ア	イ・ウ・エ	ア			230	
古典と現代語訳	物語のおわり		イ					243	5
	【作者解説】湊かなえ		イ					244	
	【言語活動の実践】連作小説の創作		ア・イ	イ・ウ・エ	イ・エ			244	
	源氏物語		ア					246	
	与謝野晶子 訳		ア			ウ・エ・キ	ア	248	
	谷崎潤一郎 訳		ア			ウ・エ・キ	ア	250	
	角田光代 訳		ア			ウ・エ・キ	ア	252	
	紫式部(原文)		ア			ウ・エ・キ	ア	254	
【探究の扉】窈窕源氏物語		ア			ウ・エ・キ	ア	256		
【言語活動の実践】古典作品を書き換える		ア・イ	イ・ウ	ウ			260	⑩	
文学評論	文学のふるさと					ウ・カ	ア	262	5
	【作者解説】坂口安吾		イ					272	
	小説の読み方					ウ・カ	イ	274	
	【作者解説】平野啓一郎		イ					283	
	【ズームアップ】文学とはいかなるものぞ		ア・イ					284	
第二章									
令和・平成の小説	ひよこの眼	イ	ア			ア・イ	ア	288	8
	【作者解説】山田詠美		イ					305	
	はね	エ	ア			イ・ウ・エ	ア	306	
	【作者解説】小山田浩子		イ					323	
	【ズームアップ】日本文学は世界の文学たり得るか？		ア・イ					324	

昭和中期の小説	赤い繭	エ	ア			ア・イ・ウ・エ	ア	326	8	
	【作者解説】安部公房		イ					332		
	野火	イ・エ	ア			ア・イ・カ	ア	334		
	【作者解説】大岡昇平		イ					354		
	【ズームアップ】戦後の文学		ア・イ					356		
	【チェックポイント4】表現の仕方に注目する	ア・ウ・エ						358		
大正の小説	檸檬	エ	ア			イ・ウ・オ・カ・キ	ア	360	8	
	【作者解説】梶井基次郎		イ					372		
	【探究の扉】秘やかな楽しみ		ア			キ	ア	374		
	【探究の扉】瀬山の話		ア			キ	ア	376		
	笑われた子	エ	ア			ア・イ・エ・キ	ア・カ	380		
	【作者解説】横光利一		イ					388		
	【ズームアップ】憧れになる作家たち		ア・イ					390		
明治の小説	舞姫	エ	ア			ア・イ・ウ・オ・カ・キ	ア・カ	392	8	
	【作者解説】森鷗外		イ					426		
	【ズームアップ】鷗外と漱石それぞれの留学		ア・イ					428		
	【チェックポイント】隠れた心情まで読み取る	ア・エ	イ					430		
海外の小説	掟の門前	エ	ア			イ・エ・カ	ア	432	8	
	【作者解説】フランツ・カフカ		イ					437		
	藤野先生		ア			イ・オ・キ	ア	438		
	【作者解説】魯迅		イ					448		
	【探究の扉】『呐喊』自序					キ	ア	449		
	【ズームアップ】透明人間の〈声〉を聞く		ア・イ					452		
戯曲	父帰る	ア	ア			ア・イ・ウ・カ	ア	454	6	
	【作者解説】菊池寛		イ					468		
	【ズームアップ】演劇を支える戯曲の言葉		ア・イ					470		
文学の普遍性	恋の物語 伊勢物語		ア			イ・キ	ア・カ	472	5	
	平家物語		ア			イ・キ	ア・カ	474		
	好色一代男		ア			イ・キ	ア・カ	476		
	【ズームアップ】震える心を物語る		ア・イ					478		
文学評論	演技する「私」					ウ・カ	イ	480	5	
	読者にできる仕事					ウ・カ	イ	488		
	【ズームアップ】文学研究とは何か		ア・イ					497		
配当時数合計		A 書くこと [丸付き数字は「書くこと」の配当時数を示す]							30	
		B 読むこと							110	
		合計							140	